

# かべ新聞

2010年11月30日

第33号

JR東海労新幹線地本

## 懲罰的な出向は許さない！！

会社は、11月中旬に、不幸にして事故を起こしてしまった構内操縦の社員に、「全日警」への出向を言い渡しました。構内操縦の社員は、第二検修庫2番線から電車を出す際に、事故を起こしてしまったのです。その後日勤教育も実施され、なおかつ、修繕車両所の所長に構内操縦のシールを目の前で剥がされ、「修繕車両所にいる間は電車に乗せない」などと言われ、修繕班の日勤を行っていました。そして、会社は操縦担当からはずし日勤にして、処分も言い渡してもまだ物足らず出向を言い渡したのです。

構内操縦の社員は、当然会社の出向通知に対し納得せず簡易苦情処理を会社に出しました。これは労働者として当然のことです。事故に対して日勤教育でとことん会社に追及され、処分もされているのです。その挙句の果ては、本人が希望もしていない出向の通知なのです。

## 事故を起こした社員を外に出せば安全が保たれると思っているのか！！

会社はこの事故に対して、本当に原因を究明したのでしょうか？今年の1月29日、J48編成の舟体落失事故は、私たち鉄道で働く者として忘れることのできない事故です。この作業に当たった社員はなおさら忘れることが出来ないことだと思います。その社員たちは就業制限がかかり挙句の果ては出勤停止処分と懲罰的な出向に出されてしまったのです。さぞかし、その社員たちは悔しい思いをしたことでしょう。

舟体落失事故原因は、ボルトの締結忘れだけでしょうか？社員たちは、「経験がないから」と断っているのです。無理に作業をさせた会社が悪いのは明明白白です。今回の入換え作業の事故も、責任追及ではなく二度と事故が起きないように背後要因を含め原因究明をしっかりするべきです。

私たち東海労はこのような、懲罰的な出向は絶対認めない！即刻出向の撤回を求める！

## 反省しろと始末書を強要！！

事故やミスをしたら修繕車両所の科長は「反省しているなら始末書を書け！！」と言う。しかし、始末書は管理者が強要できません。即刻始末書の強要をやめろ！

会社からひどい仕打ちをされ、自分の望まない出向に出されること事態、会社の異常な労務管理がそこにあるのです。

全ての闘う他労組の組合員の皆さん、このままでは私たちの生活まで脅かされます。東海労と共に安心して働ける職場にしていきたいと思います。